

5 月 教 育 委 員 会 会 議 会 議 録

日時：令和7年5月21日（水） 午後2時

場所：山口県教育庁教育委員会室

（公開）

教 育 長	それでは、ただいまより令和7年5月の教育委員会会議を開催いたします。 最初に本日の署名委員の指名を行います。 木阪委員、伊藤委員よろしくお願いします。
教 育 長	それでは本日の議題の審議に入る前に、審議の公開の可否について決定したいと思います。本日の議題のうち、議案第4号、議案第5号は、教育行政の公正又は円滑な運営に支障を生じるおそれがあることから、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項」の規定に基づき、非公開とすることが望ましいと考えますが、いかがでしょうか。
全 委 員	承 認
教 育 長	それでは、議案第4号、議案第5号については非公開で審議することといたします。
教 育 長	それでは、議案の審議に入りたいと思います。議案第1号、議案第2号、議案第3号について、まとめて教育政策課から説明をお願いします。
教育政策課長	議案第1号2号及び3号 山口県教育委員会表彰規則による表彰について、ご説明いたします。議案書の、2ページから4ページを御覧ください。 4月18日に山口県立高森高等学校の中村 真帆教諭が早期退職され、5月2日に山口県立宇部総合支援学校の石部 潤教諭が、5月8日に防府市立華陽中学校の一木 隆嘉教諭が死亡退職されました。これに伴いまして、表彰規則による「永年その職務に精励した者」として、山口県立高森高等学校長、山口県立宇部総合支援学校長、防府市立華陽中学校長から教育功労者表彰の内申がございました。通常早期退職に伴う表彰に係る永年精勤者は勤務年数が25年以上、死亡退職に伴う表彰に係る永年精勤者は勤務年数が20年以上の者となっております。内申の状況と併せまして、表彰の基準を満たすものでございました。急な退職に対応し、これまでのご功績に報いるためにも、速やかに表彰する必要がございましたことから、「教育長に対する事務の委任等に関する規則」第4条第1項の規定に基づき、教育長が臨時に代理して、4月18日付けで中村 真帆教諭を、5月2日付けで石部 潤教諭を、5月8日付けで一木 隆嘉教諭を表彰いたしましたので、ご報告し、承認をいただきたく、お諮り申し上げます。
教 育 長	ただいま教育政策課から議案第1号、議案第2号、議案第3号について説明がありましたが、意見、質問はありますか。

教 育 長	議案第 1 号、議案第 2 号、議案第 3 号について、承認することとしてよろしいですか。
全 委 員	承 認
教 育 長	議案第 1 号、議案第 2 号、議案第 3 号を承認いたします。 続いて議案第 6 号について、特別支援教育推進室から説明をお願いします。
特別支援教育推進室長	山口県教育支援委員会委員の一部変更について、御協議をお願いします。議案書の 5 ページからになります。まず、教育支援委員会につきまして、6 ページ別紙 1 を御覧ください。 山口県教育支援委員会規則の第 2 条にありますように、この委員会は、就学する児童生徒について、特別支援学校の対象になるかどうかの判断であったり、障害の種類や程度の判定が困難であったりする場合に、県立特別支援学校や市町教育委員会からの依頼に基づいて調査審議を行う県教委の附属機関です。この委員会の委員は、第 3 条第 2 項の規定により、教育委員会が任命をすることとなっております。また、第 4 条の規定により、委員の任期は 2 年間で、現任の委員については、令和 6 年 6 月 1 日から令和 8 年、来年の 5 月 31 日までとなっておりますが、この度、任期中における委員の一部変更に伴い、委員の任命を行う必要が生じたことから、お諮りをするものです。 委員の候補者を、7 ページの別紙 2 にお示ししております。委員には、障害のある児童生徒の就学相談の経験を有する学識経験者、医療分野での専門医、教育関係者を任命しているところです。この名簿の太枠 15 番の 1 名が新任です。新任委員 15 番の中村候補は、山口県特別支援教育研究連盟の役員交代に伴うものです。現在中村候補は、今年度、連盟の会長を務めておられます。なお、今回任命する委員の任期は、現任委員の任期の満了と同じく、令和 8 年 5 月 31 日までとなります。 以上、御協議のほど、よろしく願いいたします。
教 育 長	ただいま特別支援教育推進室から議案第 6 号について説明がありましたが、意見、質問はありますか。
教 育 長	議案第 6 号について、承認することとしてよろしいですか。
全 委 員	承 認
教 育 長	議案第 6 号を承認いたします。
教 育 長	それでは報告事項に入りたいと思います。 報告事項 1 について、高校教育課から説明をお願いします。
高校教育課長	それでは、資料①の 8 ページをお開きください。令和 7 年 3 月新規高等学校等卒業者の就職状況等について御報告します。

	この求人・就職状況の一覧表は、山口労働局から発表された3月末現在のデータを基に作成したものです。また、各項目上段のカッコ内の数値は、昨年3月末のものであります。まず、一番上のAの欄の「求人数」ですが、合計で6,541人であり、昨年同期の6,512人より29人、率にして0.4%増加しています。その下、Bの欄の「就職希望者数」については、合計で2,334人であり、昨年同期の2,396人より62人、率にして2.6%の減少となっています。 求人数を就職希望者数で割った、いわゆる「求人倍率」は、Cの欄にありますように2.80倍と、過去最高となりました。こうした状況の下、Dの欄「就職内定者数」は、合計で2,328人となり、その下のEの欄「就職内定率」は、合計で99.7%と、昨年度と同じ状況でした。また、Fの欄にあります「県内・県外就職内定比率」についてですが、県内は81.2%と昨年度から2.6ポイントの減少となっています。県内就職内定比率は前年同期を下回る結果となりましたが、就職内定率は12年連続で99%台の高い水準を維持しています。なお、就職を希望しながらも、就職先が決定しないまま卒業した生徒は、Bの就職希望者数合計の2,334人からDの就職内定者数合計の2,328人を引いた6人となり、前年同期と比べ1人減少しています。こうした未内定者に対しましては、引き続き、各公共職業安定所や山口しごとセンターなどの関係機関との連携を図りながら、就職の相談や斡旋等に努めてまいります。 次のページには、昨年度から取り組んでいる「明日のやまぐちを創る！高校生就職支援事業」の概要を参考にお示ししています。この事業では、関係部局とも連携しながら、高校入学後の早い段階から生徒一人ひとりに寄り添った組織的できめ細かな就職支援を推進することとしています。また、県内産業の人手不足が深刻化するなど、想定を超えるペースで進む人口減少の克服は県政の最重要課題であり、その克服に向けて、県教委としても、高校生の主体的な県内就職・県内定住の促進に努めているところです。具体的には、1の「高校生キャリアデザイン支援事業」として、高校生が県内企業の優れた技術や魅力を理解するためや、山口県の魅力を発見するためのセミナーを開催します。2の「やまぐち産学マッチング事業」では、1年時から個別相談等を行い、生徒への伴走型支援を行う就職サポーター等の配置や、高校生やその保護者が企業の採用担当者と面談を行う「ふるさと山口企業合同就職フェア」、教員等と企業の採用担当者が情報交換を行う「県内就職促進協議会」の開催などに取り組んでいます。 最後に、3に「やまぐちリーディングカンパニー連携事業」を掲載しておりますが、県教委としましては、産業界のニーズに応じた専門知識や技術を身に付けた人材の育成にも努め、就職を希望する生徒の進路の実現に取り組んでまいります。 説明は、以上です。
教 育 長	ただいま高校教育課から報告事項1について説明がありましたが、意見、質問はありますか。
和 泉 委 員	引き続いて、就職状況は全般的にみて99.7パーセントということですが、気になることは県内就職希望者数が減って県外が増えていって

	いるということ。この辺の分析とか目標をどのように考えられているか。
高校教育課長	県内就職内定比率が減少しているところでございますけれども、就職者数自体が継続的に少子化に伴って減少している中で、県外就職者数は過去4年間400人前後で安定というんでしょうか、あまり変わっていないということから、全国的な人材不足を背景として県外大手企業が積極的な採用活動もありまして、そういったことが影響して数値に表れているものと考えております。
和 泉 委 員	地域的なばらつきはあるのでしょうか。
高校教育課長	県内就職の比率の地域的なばらつきでよろしいでしょうか。これにつきましては県外と隣接している地域、東側、西側、北側がございすけれども、そういった地域において、県央部、真ん中あたりよりは県内就職率が若干低いという状況は発生しております。
和 泉 委 員	すぐ通える範囲に行くという生徒さんも多いと思いますが、ぜひ、山口県の魅力ということで、引き続きご尽力いただければと思います。
高校教育課長	県教委といたしましても、こういった課題に対応するために、県の西側、東側等に重点的に人材配置しまして、就職の支援や県内企業の魅力を伝える取り組みなどに、引き続き取り組んでまいりたいと思います。
伊 藤 委 員	話はずれるかもしれませんが、各県の保育士の養成校の志願者数がかなり少なくなっているんですね。それにあたって、各県の先生方と先日、意見交換しまして、今の学生は保護者の意見をかなり尊重しているということで、山口県も学生に魅力あるセミナーがたくさん出ていますが、保護者も同席と資料の概要にありまして、保護者への各企業の山口県の良い企業を知る機会があると思いますので、保護者も同席の形を宣伝するということをもう少し考えていただけたら、少し違うのではないかとこの意見が出ましたので、お伝えします。
高校教育課長	県教委として取り組んでいることに関しましては、生徒のみならず保護者にも伝えているところであります。就職フェア等では生徒のみならず保護者の方にも来ていただいて一緒に話を聞いていただいていることも行っているので、できる限り保護者が参加できる機会を増やしまして、保護者の方にも県内の魅力を知っていただくという取組を一層進めていきたいと考えておりますので、引き続き取り組んでいきたいと考えています。
教 育 長	一人一台のタブレット端末の中にも県内企業の情報とかを取り込んでいますので、家に持ち帰って保護者と一緒にその情報を見ながら、どこの企業がいいのかを選択することもできますので、そういったところでも活用していただけたらと思います。

木 阪 委 員	内定状況について、関係各位、大変ご尽力いただき、敬意を表する次第でございます。この3月の内定状況ですが、昨年の議事録をみますと、やはり県外流出が多いですが、昨年と比べると少しずつ県外流出の割合が増えていっているのはなかなか深刻な状況だと思います。18.8%の方が県外流出ですと、ほぼ5人に1人というかたちになりますので、数字だけで考えると由々しき問題であります。逆に去年のこの会議で申し上げたのですが、8年連続で移入者が増えている。これは嬉しいニュースであるのですが、移入者もそうなんです、仮に県内から一時期、県外に出られて、いろいろな経験をされとか、流出されることは防ぐことはできないと思うのですが、仮に県内で自営業であるとか商売をやっておられる方が、一旦外に出て帰ってくることもあると思うんですが、どうしても大人になって考えると、経営者もそうなんです、むしろ小学生や中学生の頃とか、今、義務教育課でも取り組んでいるようですが、学校とを切り離す必要があるとは思いますが、事業承継が大人の話というよりは、むしろ小・中学生のときから人材を育てるそういったものを考えてもいい、時間はかかりますけれども、将来的に帰ってくるような方が増えるような可能性がゼロではないとは思いますが、そういったいろいろな手段を考えてもらって、今、考えておられる地域の担い手づくりに繋がると思いますが、今、学校現場等では地域のいいところをいろいろ教えていて、そこからもう一步踏み出すものとして、そういったことにも着手した方がいいのではないかなと思います。
義務教育課長	今、小中段階から県内就職にかかわるような内容の人材育成を図っていく必要があるのではないかというお話があったように思いますが、現在キャリア教育の推進を小学校、中学校でもかなり力を入れて取り組んでいるところでございます。中学校におきましては職場体験の充実を従来から図っているところでございますが、今後の山口県の状況等々を鑑みて、そのあたりを強化していきたいと考えているところでございます。
木 阪 委 員	生徒さんと学校現場だけではなくて、保護者の方へも、もっと共有するのもいいのかなと思います。
義務教育課長	地域の方を踏まえて、一緒に熟議等も行っていきたいと思いますので保護者の方も交えてそういうところの推進を図ってまいりたいと思います。
藤 田 委 員	単にここでお答えいただくのは難しい質問なのかもしれませんが、就職したところでの3年ぐらいの離職率はデータとして出ているのかなと、個人的には知りたいところです。私も民間企業の経営者でありますので、人材採用では非常に苦労しているところではありますけれども、皆さんよくご存じのとおり大学の新卒なんかも3年内の離職率は非常に高いということではありますし、高校生もそうだと聞いています。そのためには、われわれ民間のほうも魅力的な企業として、存在する努力をしなければいけないなと思うところではあります。

	で、まずその情報を知りたいところと、私も何かとふるさと山口企業合同就職フェアも参加しようかなと思うのですが、なにぶんこの提示されている開催日だけでも各地で一日しかございませんので、今、人材不足でこういうのに参加したくても日にちが一日だけだと受け入れの企業数も上限が出てくると思うので、参加したくてもできなかったりとか、日程が一日しかないと参加が厳しかったりするので、その辺はタブレットとか支給されていますので、高校生に地元こういう企業があるんだよと知らせる仕組みをもう少し考えていただけると就職に繋がるのかなと思うのと、先日、高卒の新卒の説明会を下関のほうで参加しまして、その中で、県内で就職を希望する子の一番の理由が、親や友人がいるからというのが男女ともに断トツでした。そして、県外に就職する子の理由の一番が、娯楽があるから。要は、そういう意味では教育の関係者だけでなく、やはり地元行政の魅力あるまちづくりをしていかないと地元に残ってもらうのは難しいかなと感じましたので、横の繋がり、縦の繋がり駆使して山口県全体が少しでも充実していけばいいなと思った次第です。
高校教育課長	まず、最初にお尋ねにありました、ここでの3年間での高校生の離職率ですが、全国の離職率が公表されている統計がありまして、厚生労働省が全国の状況を取りまとめた公表をしたものですが、最新値の令和3年3月に卒業しました全国の高校生の3年以内の離職率は38.4%となっているということです。山口県単独の数値は持っておりませんが、おそらく全国のような然りということではないかと思っております。それから就職フェアでの開催日のことですが、学校や生徒さん、人数を動員して企業の皆さんにも来ていただいて調整をしながら行っているところですが、昨年より開催場所を増やして実施していることにして、精一杯増やしているところではありますが、ご指摘がありました通り各地域が一日しかないというのは、できることであれば増やしていくように考えているところです。タブレットを使って県内企業の魅力を伝えるということについては、現在、生徒一人一台ずつタブレット端末をもっておりまして、そちらにバナーというか専用の入り口を設けましてそこを開けてもらえれば、どういったところの企業がある、どういった求人があるというのを見られるようにしてありますので、これも終始行いたいと思っております。それから県内に残る生徒、県外に出る生徒の理由をお示しいただきましたけれども、山口県に残ってもらえる生徒の故郷の親や友人というお話がありましたけれども、そういったものに対して、今、義務教育課とも一緒になって地域連携教育の中で山口県の郷土に対する愛着・愛情を育てる教育を進めておりますので、引き続きそれについては、寄り添う形がとれるようにと。県外に出る生徒が娯楽を求めて外に出るということについては、山口県も移住者が増えておりますし、きらら記念公園の中国地方最大のフラワーランドや新しい遊具もできるという魅力を高める取り組みを県全体で進めておりますので、こういったことで生徒が山口県の中に娯楽を感じてくれるといいなというふうに考えております。
教 育 長	就職フェアは大学生限定もあるのでは？

高校教育課長	就職フェア自体は山口労働局が企画されているもので、これに参加をさせていただいているものです。こういったご意見があったというのは労働局の方へ伝えていきたいと思います
教 育 長	就職フェアは6月から開催なので大丈夫ですね。
廣 中 委 員	やまぐち企業合同就職フェアで、高校生と保護者と企業の面談ということと、一人一台のタブレットで就職の情報がわかるということを恥ずかしながら今日知りました。それで子供は3人ほど就職していますが、一人が民間で、全く私は子供がやっている仕事を理解しておりません。自分の仕事が医療福祉分野だけだったので、他を経験したことがないので、全く未だに分かっておりません。私自身もこれを知らなかったのもっともっと周知していただいて、私も勿論知らせますし、こんな職業があるんだということで、子どもの夢を親が理解してあげて応援してあげられるという機会になるかなと思いますので、是非もっとPRしていただければと思います。
高校教育課長	就職を希望する生徒に対しましては、こういった情報はしっかりと伝えるとともに、保護者の方にもしっかりと情報が伝えられるように各学校にも周知してまいりたいと思います。それから、保護者の方に見ていただければ、こういったいいところがあるということで、保護者の方の意向というのは生徒の就職に大きく影響しますので、そういったところにもさらに力を入れて取り組んでいきたいと考えています。
教 育 長	子どもさんとタブレットで情報や動画を見ていただければと思います。 報告事項1については、以上のとおりとします。
教 育 長	次に、次回の教育委員会会議の日程について、教育政策課から説明をお願いします。
教育政策課長	次回の教育委員会会議は、令和7年6月9日（月）午後2時を予定しております。よろしくお願いします。